

【技術専門部会報告】

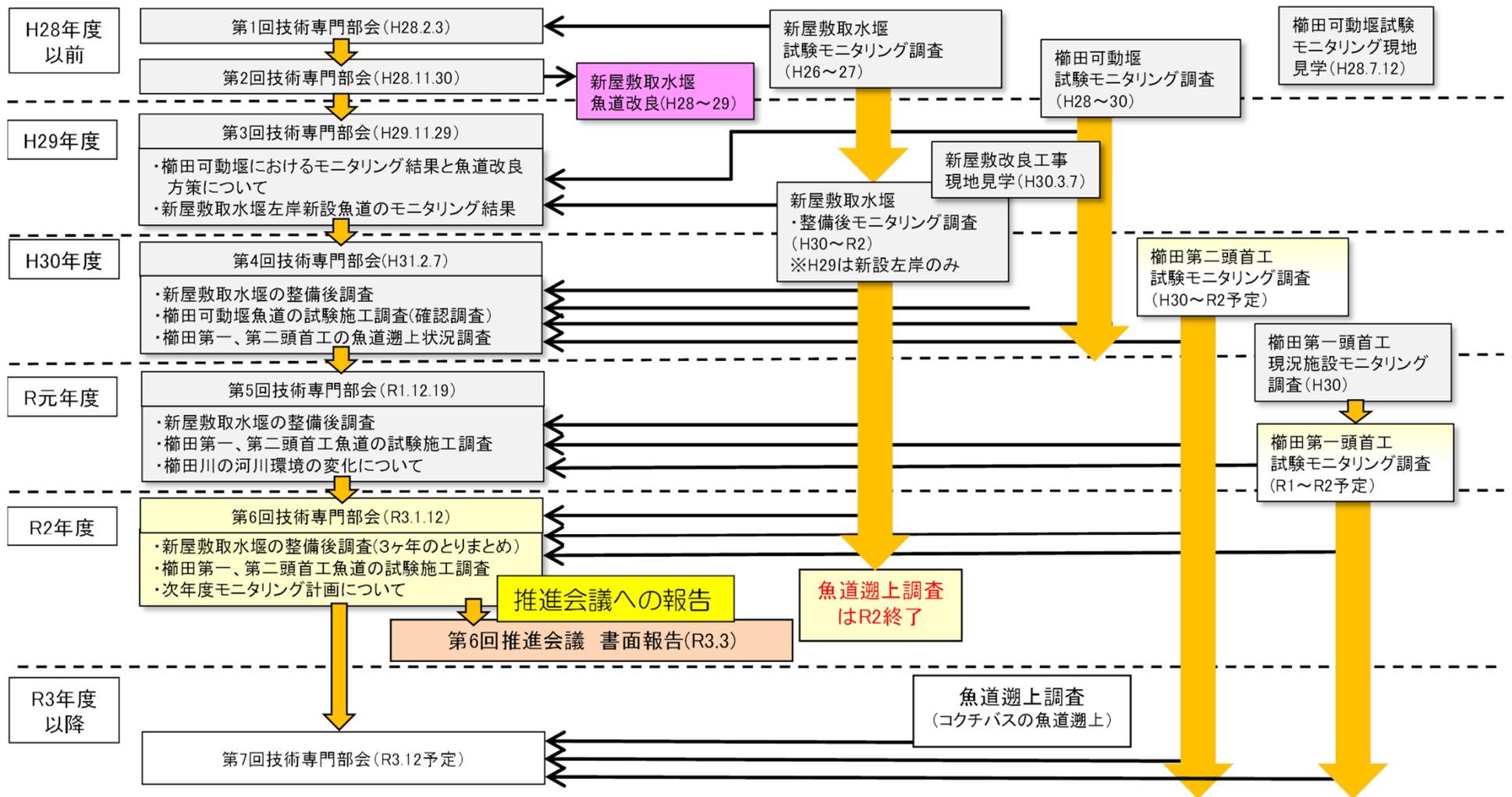
令和3年3月

技術専門部会
部会長 河村 功一

1. 技術専門部会の取り組み

(1) 縦断的連続性再生（魚道改良等）の取り組み

- 新屋敷取水堰では、魚道整備後3ヶ年（H30～R2）のモニタリング調査を実施し、**新設・改良魚道の整備効果をとりました。**
（魚道遡上調査はR2で終了）
- 櫛田第二頭首工、第一頭首工は、試験モニタリング調査（H30～R2）を実施し、課題・対応策の検討を行いました。R3は、**櫛田第二頭首工における水叩き遡上対策の試験施工も行い、継続して調査・検討**を行います。
- R2は、これまでの採捕調査に加え、遡上アユのビデオカメラによる計測、回遊性底生魚の潜水目視計測、アユ環境DNAによる個体数推定手法について試行し、有効性を確認しました。R3以降も継続して実施し、魚類等への採捕圧の少ない調査手法を検討します。
- R2の魚類生息分布調査において特定外来種**コクチバスの急激な増加が確認**され、R3より**コクチバスの魚道遡上状況の調査**、遡上しにくい魚道の検討を実施します。



2. 第6回技術専門部会の開催概要

- ・第6回技術専門部会（R3.1.12）」を開催し、自然再生モニタリング調査結果や次年度モニタリング方針の整理結果を報告し、留意点や今後の進め方等について確認を行いました。

(1)日時：令和3年1月12日(火) 15:00~17:00

(2)場所：松阪商工会議所 第一研修室

(3)議題：

①櫛田川自然再生推進会議 技術専門部会の議事概要について

- ・第5回技術専門部会議事概要について事務局から説明を行い、了承とされました。

②自然再生モニタリング調査結果について

- ・事務局より『縦断的連続性の再生』を進めるための基礎調査として実施した、魚類の生息・産卵・遡上環境等のモニタリング調査結果について報告され、確認しました。

○新屋敷取水堰魚道の整備後3ヶ年（H30~R2）のモニタリング調査により整備効果を確認。（魚道遡上調査はR2で終了）

○櫛田第二、第一頭首工の試験モニタリング調査により、第二頭首工水叩きの遡上・滞留影響や遡上困難な回遊性底生魚が把握され、試験モニタリングの継続実施の必要性を確認。（R3以降の調査実施）

○特定外来種コクチバスについて、魚類生息環境調査より急激な増加と対策の必要性を確認。（R3以降の地域連携の取り組み実施）

○アユ産卵床について、魚類産卵床環境調査により河床環境の変化の可能性と調査の必要性を確認。（R3以降の調査実施）

○試験的に実施した「遡上アユのビデオ画像による計測」や、「回遊性底生魚の潜水目視計測」、「アユ環境DNAによる個体数の推計」の各手法について、調査結果より適用可能性を確認。環境DNAについては、特定外来種コクチバスについても実施を検討。（R3以降の調査実施）

③次年度モニタリング方針について

- ・次年度モニタリングの方針について事務局から説明を行い、了承とされました。

○新屋敷取水堰の魚道整備後モニタリング（魚道遡上調査）の終了。

○櫛田第二、櫛田第一頭首工の試験モニタリング調査の継続実施。また、第二頭首工水叩きの遡上対策について試験的に実施し、効果を検討。

○魚類生息環境調査結果（定着期）、魚類産卵床環境調査結果（アユ産卵期）の継続実施。

○「遡上アユのビデオ画像計測」、「回遊性底生魚の潜水目視計測」、「環境DNAによる個体数の推計」の各手法について、継続実施し、適用性を検討。

○生息域の拡大、生息数の増加が認められる特定外来種コクチバスについて、魚道における遡上状況を調査し、遡上しにくい対応策等を検討。

④今後の進め方について

- ・事務局より今後の進め方について報告され、確認しました。

○櫛田第一・第二頭首工「試験モニタリング調査」を継続実施し、試験施工の効果について検討。

○櫛田第一、第二頭首工の魚道改良に関して、関係機関等と協議・調整を実施

最後に、事務局から提案された②~④について、第6回推進会議（書面報告）で部会長報告することを確認しました。